

## 新郷村～五戸町



### 大石神ピラミッド 1

一説では、日本に7基存在するピラミッドの一つであるとされる大石神ピラミッドですが、そこには、付近では見られないような石質の巨石が散在しています。それぞれが「太陽石」「方位石」「鏡石」と名付けられ、表面に文字が刻まれていたもの、方位を正確に示すものなどを見ることができます。古人が太陽に祈りを捧げるための祭壇を構成していたといわれています。

### キリストの里伝承館 2



キリスト伝説の源になった古文書、人物、著書、風習を紹介した「キリスト伝承コーナー」を始め、民具・農具などを展示、村の文化を伝える「戸来展示コーナー」、村の伝説、民話、民俗芸能を映像で紹介した「不思議映像ボックス」、昭和初期の生活様式を復元したコーナーでは、民族衣装をまとっての記念撮影や「手打ちそば」「豆しとぎ作り」などの実演も行っています。また、新郷村周辺の観光スポットを立体的に紹介した「新郷村観光インフォメーションコーナー」などがあります。

### キリストの墓 3

ゴルゴダの丘で磔刑に処されたはずのキリストが、実は密かに日本に渡り、新郷村で106歳の天寿を全



うした…そんなキリスト渡来説とともにこの地にやってきた研究家たちによって、昭和10年8月、キリストの墓が発見されました。村では、この地で一生を終えたとされるキリストの御霊をお慰めるため、昭和39年からキリスト祭を開催しています。

この地域がキリストにゆかりがある理由として、○旧村名の「戸来村」はヘブライから来ている○子供が生まれて初めて戸外に出すときに、額に十字を墨書する○足がしびれたとき、人差し指につばを付けて額に十字を3回えがく○この村に伝わる「ナニヤドヤラー ナニヤドナサレノ ナニヤドヤラー」という音頭が、ヘブライ語で神を称える意味になる、などが挙げられています。

### 三嶽神社(戸来) 4

古色蒼然たる神威の崇厳を窮める旧御社で皇朝第56代清和天皇の御代、貞観5年7月19日(1140年位前)の創建といわれています。数々の神話と伝説に包まれた古社の境内には、樹齢500年とも800年とも言われる榎をはじめ、古木大樹が林立して昼なお暗く、歴史的な重みを感じさせます。

### 長泉寺 5

大日如来は戸来家の寄進した記録がありますが、文珠、普賢の両菩薩は運慶の作とか春日の仏師作といわれているもので、門外不出の秘宝です。



### 三嶽神社(西越) 6

貝守三嶽神社は、戸来三嶽神社よりも50年も早く創建され、祭神は広国押武金日命で、西越三嶽神社の祭神は倉稲魂命で、農事の神様であり建立年代が定かではありません。

### 坂本家住宅 7

西越集落の民家は、平入りの直屋に、茅葺きの寄棟造り屋根をかけ、平側の正面に大きなハホ(煙出し)を開け、棟を草で押さえた芝棟とするのが一般的で、坂本家住宅もこの形態です。地方的な特色を備えた山村民家として、国の登録有形文化財に指定されています。



平成16年度から、西越集落に残る茅葺き民家を保存・活用しようというプロジェクトが立ち上がり、農業体験や様々な活動を行う拠点として利用されています。

### 木村家住宅 8

坂本家住宅と同じ西越集落にある木村家住宅も、伝統的な意匠を残し、山村景観を形成する民家として国の登録有形文化財に指定されています。現在は、別荘として使用されてます。



### 新山神社 9

元禄2年(1689)盛岡藩士木村又助秀晴の創建といわれています。現在の拜殿は昭和6年に、本殿は昭和13年に新築。彫刻師本田万太郎による数々の彫刻は東北随一とも言われる見事な出来栄えて、荘厳な佇まいを見せています。

神社の西側には、まるで夫婦のように対をなすケヤキとエゾエノキの二本の巨木(夫婦御神木)があり「夫婦神社」「縁結びの木」として親しまれています。

### ふれあい体験の郷 10

約170年前の江戸時代後期(文政年間)の農家を復元した建物があります。この地方は南部の九牧のひとつで、又重牧という馬産地として知られていました。馬と人が同じ屋根の下で共に暮らしていた当時の生活、建築様式を現代に伝える大変貴重なものです。隣接する【ふるさとの味伝承館】では、郷土料理づくり体験ができます。

### 高良神社 11

創建は大同年間と伝えられているが、沿革その他は不明。天曆13年(1763)に第34代藩主・南部利雄が奉納した、五戸地方最古といわれるお御興には「奉納御興、崇高三代南部大膳大夫利雄公」「武運長久」と記されています。

### 上村のカシワの木 12

旧圓子家住宅の建物横には、推定樹齢およそ800年、県天然記念物の「上村のカシワの木」があります。カシワの木では幹の太さが日本一、神木として地域住民に大切にされています。

### 旧圓子家住宅 13

旧圓子家住宅は、江戸時代の武士であった圓子氏の住宅です。圓子氏は「九戸の乱」(1591)の後に五戸町倉石中市に居を構え、南部藩直命の山奉行となったと伝えられています。



建築年代は江戸時代末期で、保存状態が非常に良く、当時の様子を良好に残しています。また、玄関・式台・塀重門の關係を残している武士住宅は県内では本住宅だけ。平成13年に県重宝に指定されました。居宅のほかに、表門、板塀、井戸、生け垣、庭園なども復元され、居宅内には調度品や、古文書、絵図などが陳列されています。

### 駒形神社 14

前身は高間館正善社とされ、高間館正善社は標高約250メートルの高間館に馬の神様として鎮座していた古社でした。正善社は木ノ下正善の姉神であるともいわれています。石沢部落に社殿を移し、明治初年の神仏分離令などで駒形神社と改称しています。

### 【南部駒踊】

藩政時代、野馬捕りの様子を芸能化したといわれる伝統舞踊「南部駒踊り」は、青森県無形民俗文化財に指定されています。倉石地区にある石沢駒踊伝承館では、この地に伝わる駒踊りの衣装、用具、古文書などの資料を展示しています。



### 奥州街道 15



面影が忍ばれます。一里塚跡や明治天皇御休憩所跡、街道の松など、歴史の深さを感じられる名所が点在します。平成8年には「歴史の道百選」に選定されています。

通称・古街道と言われていた歴史の道。奥州街道の五戸町を通る南側の大部分が昔のまま残されており、往古の

### 寶福寺 16

大永3年(1523)に浅水城主の南長義が寺領35石をもって開基したと伝わります。南氏は南部氏一族の重鎮として活躍しました。県重宝の本堂は、嘉永2年(1849)に火災に遭い、安政6年(1859)に再建されたものであり、江戸時代末期の年代特徴をよく表しており、貴重な建造物です。また、棟札をはじめ、本堂再建に関する重要な記録類が整理され残されています。



### 地藏岱の地藏尊 17

古くから「地藏岱の地藏さま」と呼ばれ、地元の人々の信仰を集め、町の史跡に指定されています。無病息災、安産、豊作祈願などにご利益があるとされています。



200年ほど前に、酒屋又兵衛によって建立されたといわれています。

### 歴史みらいパーク 18

地域住民の生涯学習と憩いの場として平成10年にオープンした公園です。園内には、YS-11機の生みの親であり五戸町名誉町民でもある木村秀政博士の記念コーナー「木村秀政ホール」を併設した「五戸町図書館」と「五戸代官所」の復元施設があります。



### 五戸代官所 19

盛岡南部藩28カ村(三戸郡下13カ村、北郡下15カ村)を統轄した五戸代官所の設置年代は寛永12年(1635)ごろと推定されています。明治2年に廃止されました。現在の建物は当時の代官所の平面図を基に復元されたものです。



町の文化財にも指定されている門は、文久年間(1861~1864)の建築と推定され、屋根と土台が老朽化したため修復され、現存しています。

### 五戸町消防団第一分団屯所 20

大正時代に建てられた数少ない洋風消防団屯所建築の遺構として貴重なことから県重宝に指定されています。赤いドーム屋根付の望楼を持った2階建の屯所は、県南地方における消防屯所の代表的なデザインであり、その中でも保存状況が良好で県南地方を代表する消防屯所です。現在も五戸町消防団第一分団屯所として使用されています。



### 江渡家住宅 21

天明年間(1781~1788)の建築といわれ、大規模な寄せ棟造りの茅葺き屋根が特徴です。保存状態が良く、当時の在郷武士の生活が分かる貴重な建物です。現在も民家として使用されており、外観のみ見学可。昭和48年、重要文化財に指定されています。



### 高雲寺 22

創建は慶長2年(1597)、木村奎之助秀勝により開かれたのが始まりとされます。秀勝は南部信直の命で五戸館を築き城下町を整備した際、木村家の菩提寺として高雲寺を創建しました。慶長20年(1615)、五戸館は廃城。代わって五戸代官所が設けられ、木村家は歴代代官を歴任しました。墓所には、開基となった木村奎助秀勝や圓子氏歴代の墓のほか、会津藩家老内藤介右衛門や、五戸地方の教育の礎を築いた会津藩士・倉沢平治右衛門の墓があります。

### 専念寺 23

元亀元年(1570)五戸に開山されたもので、伝承によると小川原湖から百石根岸、八戸轟木、五戸新田を経て現在の愛宕へ移転したといわれています。小川原湖や姉沼にまつわる伝説として、仏沼から引き上げられたという仏像が伝わります。